

研修名：幼児教育・保育

平成 31 年 2 月 28 日（木） 13:30～16:00

講演・演習：「資質と能力を育むための保育内容」

「個々の子どもの発達状況に応じた幼児教育・保育」

講師：関東学院大学 久保 健太氏

1. 講演要旨

①深い学びの3つのレベル

- ・学習Ⅰ：教えられた通り、言われた通りの仕方でも問題を解決しようとする
（最も浅い学びであり、保育者が正しい方法を知っていてその通りに子どもがするやり方）
- ・学習Ⅱ：自分たちで状況を把握しながら、問題を解決しようとする
（その子なりのやり方であり、その子なりの引き出しである）
- ・学習Ⅲ：自分たちの把握状況・問題解決の仕方すら問い直ししながら、新たな解決方法を編み出す
（新しいやり方、新しい引き出しを自力で増やす）

〈保育者の仕事〉

- ・任せる・見守る・信じる
- ・個々の子どもの引き出しを把握しておく

②5つの学びの段階

- 1) やりたい！
- 2) やりたいけど、できない。できないけどやりたい
- 3) やった！できた！
- 4) いつでも、どこでも、やりこなせる
- 5) できるようになったことが、周囲に波及する

〈保育者の仕事〉

- ・「やりたい！」に火がつく環境を準備する
- ・「やりたいけどできない」を見守る

③基本的信頼

- 1) 相手に対する信頼
- ・この人は自分に応答しようとしてくれる存在であること
（助けてくれる・譲ってくれる・返してくれる・与えてくれる）

2) 自分に対する信頼

- ・自分は他者から応答してもらえる大事な存在であること

<保育者の仕事>

- ・衝動的に伝えなくても、自分の欲求は伝わるという経験をしてもらう
- ・伝えた後には、一緒に「できない」を伝える
- ・欲求表出に個別に応答する（欲求表出→応答）

④ 周辺参加

- ・見るだけ参加、口だけ参加、がつつり参加、ほどほど参加等…
- ・完璧を求められない立場でいることが出来る
- ・「無理だ」と思えばやめることが出来る

→結果として危険の回避になっている

<保育者の仕事>

- ・本人の本当の「やりたい！」を見抜く
- ・周辺参加を許す
- ・子どものやりたい遊びをしてあげる（ジャンルに分ける）

2. 感想

子どもの学びの深さには個々にレベルや段階があることを知った。講演を聞いて自分の保育を振り返った時に、日々の保育生活において自分が正しいと思うやり方をその通りに子どもにさせていた場面がいくつか思い当たった。自分としては良かれと思ってお手本になろうという一心で行っていたつもりであったが、固定観念に捉われず個々の子どもの行動をある程度見守る事も大切であると感じた。子どもは自分が思っている以上に発想力があり、自分で編み出す力を持っているのだと思う。その力を伸ばせるかどうかは保育者の見守り方や声掛けで変化してくるのだと思うとこの仕事の深さややりがいを改めて感じる。子どもの「やりたい」という気持ちを大切に、過干渉になりすぎず、手を貸しすぎない保育にも今後努めていきたいと思う。

保育士と子どもの信頼関係を育てるためにはまずは子どもの思いに個別に応答する事が大切であると学んだ。ただ自分の思いを伝えるのではなく、子どもが言ってほしい言葉を探りながら関わる事が大切であると思う。しかし、自分では分かっているもののなかなか心と時間に余裕が無いのが今の現状である。子どもとの関りの時間を設けるためにも自分の中の心の余裕を作る事が一番であると感じた。



（記録 亀岡あゆみ保育園 黒田莉愛）